

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

2020 年 4 月 15 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 工 学 研 究 科

職 名 助 教

氏 名 中 尾 聡 史

助 成 の 種 類	令和元年度 ・ 研究活動推進助成			
申請時の科研費 研究課題名	日本における土木批判についての歴史民俗研究			
上記以外で助成金を 充当した 研究内容				
助成金充当に関 わる共同研究者	(所属・職名・氏名)			
発表学会文献等	(この研究成果を発表した学会・文献等) 第40回 土木史研究発表会			
成果の概要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)			
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	1,000,000 円		
	使用した助成金額	1,000,000 円		
	返納すべき助成金額	円		
	助成金の使途内訳	費 目	金 額	
		物品費	661,008	
		旅費	317,000	
		その他	21,992	
当財団の助成に ついて	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団助成には多大なご支援をいただきまして、ありがとうございました。おかげさまで、研究を継続して行うことが可能となり、大変たすかりました。今後もこのようなご支援を継続していただけますと幸いです。			

日本における土木批判についての歴史民俗研究

工学研究科都市社会工学専攻
助教 中尾聡史

本研究は、これまで明らかにされてこなかった土木技術者の歴史を民俗学的なアプローチから解明しようと試みたものである。既往研究において、中近世における土木技術者が、常民（定住農業民）ではなく、非常民（特殊な技術を持った漂泊民）であったこと、伝承や伝説において、土木技術者が、鬼や河童といった妖怪として表現されていること、を明らかにしてきた。本研究では、土木にまつわる伝説について文献を中心に調査し、既往研究で得られた知見を用いて、土木にまつわる伝説の解釈を試みたものである。

本研究で得られた具体的な成果として、①鬼が石段づくりを行ったという伝説が九州地方を中心に残されていたこと（九州以外では秋田県にも存在していた）、そして、②この鬼と石段の伝説が伝えられてきた地域のほとんどが修験道や鉱山と関わりのあること、を発見した。

①については、これまでの研究では、鬼が土木工事を行ったという伝承や伝説を採集することができておらず、鬼と土木の直接的な関連を示す十分な史料が存在していなかった。しかし、本研究において、文献調査や実地調査を行ったところ、大分県豊後高田市の熊野神社に、鬼が土木工事である石段づくりを行ったという伝説が残されていた。そして、この石段は架空のものではなく、熊野磨崖仏へと続く階段として現に存在し、今なお参拝客に利用されている。石段が存在しているのであるから、石段を作った土木技術者が実在していたはずであり、その土木技術者が伝説上、鬼と表現されていたのである。鬼が石段を築いたという同様の話は、福岡県豊前市国玉神社、大分県別府市八幡竈門神社、宮崎県都城市東霧島神社にも存在していたことを発見した。九州以外であれば、秋田県男鹿市赤神神社にも存在している。そして、いずれの地においても、鬼が作った石段が現存している。これらの知見は、石段を築いた土木技術者が鬼と呼ばれていたことを示す史料であり、この知見は、今後の土木史の解明に大きく貢献するものと考えられる。

②については、これまでの研究（若尾五雄の民俗研究）において、鬼の伝説が残る地域は、鉱山や修験との関連が指摘されていたが、そのことを念頭に調査したところ、①で発見した石段にまつわる鬼伝説が残る地域にも、修験や鉱山との関連があることが本研究で明らかとなった。このことは、若尾五雄の鬼伝説に関する分析の正しさを裏付けるものであり、若尾五雄の民俗研究が、鉱山史さらには土木史の解明に大いに役立つことを示すものと考えられる。

本研究では、大分県国東半島に遺る石段にまつわる鬼伝説を中心に調査を行ったが、九州地方には石橋や石塔が多く遺されており、これらを築いた石工と、この石段を築いた技術者との関連についても考察していく必要がある。大分県院内町にも、石橋が多く遺されている

が、一種の土木技術者である陰陽師のことを院内と呼ぶことがあり、この地名と土木技術者との関連も興味深い。本研究で得られた知見を活用して、今後は土木史の解明や地名の由来を調査していくことを考えている。